

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年11月28日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、斎藤慎一郎 澤出梨江（HBC 記者、寿都町を取材）		
検証テーマ：GoTo トラベル、オープニング、新型コロナの東京都内の感染者、河井夫妻事件 【特集】核のゴミに揺れる街		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GoTo トラベル ・オープニング ・新型コロナの東京都内の感染者 ・アメリカの累計感染者が 1300 万人超 ・河井夫妻事件 ・映画「プラスチック・チャイナ」が変えた中国のプラごみ集積 ・茨城県鹿島港で貨物船と遊漁船が追突 ・【特集】核のゴミに揺れる街 ・【特集】バッタ襲来で食糧危機 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GoTo トラベル：結論→特に問題なし <p>GoTo トラベルについて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。</p> <p>菅義偉「札幌市、大阪市について出発分についても利用を控えるように直ちに呼びかけることと致します。ナレ「観光支援策 GoTo トラベルを巡って昨日、菅総理は札幌市と大阪市から出発する旅行は控えるよう呼びかけました。大阪府の吉村知事は。」</p> <p>吉村洋文（大阪府知事）「大阪府としても、この今、国と協力して新型コロナの感染拡大を抑えていかなければいけない、大阪市からの出発についても利用の自粛というのも大阪市民の皆様をお願いを申し上げたいと思います。」</p> <p>"ナレ「こうした呼びかけに対し、大阪市民は。」</p> <p>大阪市民 A「感染を持っている人というのがもう多い地域だと思うので、しょうがないなとは思いますが、ただやっぱり住んでいる身からするとちょっとこうはれもの扱いされているんじゃないかなと思うことがありますね。」</p> <p>ナレ「大阪市を目的地とする旅行は既に補助の対象外となっていますが、道頓堀では大阪市以外からの観光客の姿も見られました。」</p> <p>東京からの観光客 B「スケートの試合を見に、チケットがあったので、やっぱり来ないという選択はなかったんですけども、もしそれがなかったら考えたかも知れないですね。」</p> <p>東京からの観光客 C「気をつけなくちゃいけないですけども、ちょっと油断しているような。」</p> <p>"ナレ「一方、北海道では札幌出発の自粛要請に旅行客は複雑な思いで受けとめています。」</p> <p>東京へ向かう旅行客 D「仕方ないですよ、こんなに感染者が増えているから。」</p> <p>ナレ「観光客に人気の札幌二条市場では 21 日に政府が札幌を目的地とする旅行の新規予約の受付の一時停止を</p>		

決定したことを受け、既に客足に深刻な影響が出ています。」

市場の関係者 D「先週と比べると雲泥の差ですね、人が全然少ないです。」

市場の関係者 E「行ったり来たりできないというのがね、本当に大変だと思います。」

ナレ「北海道経済を支える観光がさらに冷えこむのは必至です。」 "

このトピックについて当てられた時間は 140 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「文科省が作った学習指導要領に嘘をついたりごまかしをしないと言います、小学校 1,2 年生向けです、3,4 年生になると過ちは素直に改めるとあります。桜を見る会とその前夜祭、安倍首相は道徳の授業を小学生からやり直されてはいかががでしょうか。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 21 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 新型コロナの東京都内の感染者：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「ではニュースです、新型コロナウイルスについて東京都は今日、新たに 561 人の感染を発表しました。」とのコメント、日下部キャスターの「重症者が急増する中、病床の逼迫化、病床の逼迫が深刻化する懸念があり小池都知事が急遽医療機関の視察を行いました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"原田真衣（報告）「小池知事が日本医科大学附属病院に到着しました。医療従事者を激励するとともに重症患者に対応する医療現場の状況を自ら確認します。」

ナレ「小池都知事は今日、新型コロナの重症患者を受け入れている 4 つの医療機関を視察しました。東京都が今日発表した感染者は 561 人で過去最多だった昨日の 570 人に次ぐ高い水準です、また東京都は独自の基準で人工呼吸器や人工心肺装置を装着している患者を重傷者と定義していますが、その人数は緊急事態宣言解除後の最多を 6 日連続で更新し、今日は 67 人にまで増えました。更に ICU 集中治療室の入院患者などを加えた国の基準で見た重傷者は一昨日発表の数字で 250 人となっています、現在、都の基準での重傷者を収容できる病床は 150 床あるとされていますが、都の関係者からは実際に使えるのは半分くらいとの危機感が示されています。」 "

"小池百合子（都知事）「実際に医療の現場のお話を伺ってやはり共通して課題であるのは人員の確保という点があります、

ナレ「医療体制の懸念を受け、急遽視察を決めた小池知事は重症患者に対応する現場の状況を確認した上で、医師や看護師などの人材、人手が厳しいとの述べ、病床の数だけでなく医療スタッフの確保が喫緊の課題だと述べました。」 "

このトピックについて当てられた時間は 119 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 河井夫妻事件：結論→特に問題なし

膳場キャスターによって「参議院議員の河井案里被告の選挙を巡って公職選挙法違反の罪に問われた秘書の裁判で最高裁は秘書側の上告を退けました。連座制が認められれば案里被告が失職することになります。河井案里被告が初当選した去年の参院選を巡っては公設秘書の立道浩被告が車上運動員に違法な報酬を支払った罪に問われ、一審と二審では執行猶予付きの有罪判決が言い渡されています。立道被告側は上告していましたが、最高裁は今日までにこの上告を退けました。今後、立道被告の有罪判決が確定し次第、広島高検が年内に案里被告への連座制の適用を求めて行政訴訟を提起する見通しで、これが認められれば、案里被告の当選が無効となり失職す

ることとなります。」とのことが伝えられました。

このトピックについて当てられた時間は 57 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】核のゴミに揺れる街：結論→今後の注視が必要

膳場キャスターの「特集です。先週から核のゴミ最終処分場の候補地を選ぶ文献調査が全国で初めて北海道の二つの町村で始まりました。」とのコメントおよび日下部キャスターの「長年足踏み状態が続いていた核のごみ問題。町長はなぜ手を挙げたのか。取材しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「鉄板に自慢のカキが並ぶ。」

"男性「20 個ぐらいですかね。」

男性「これバケツにね・・・40 個じゃきかないかもしれない」"

男性「1 月末から、だいたい 6 月末まで、食べ放題ってのをやってるのね。」

ナレ「吉野寿彦さん。60 歳。北海道寿都町で妻と息子の 3 人で海鮮食堂を営んでいる。こだわりは目の前の寿都湾で獲れた海産物。」

吉野さん「これ全部カキです。まあ 1 日食べる時でほんとに 1 トンぐらいは食べますね。」

ナレ「さらに観光客を呼び込もうと力を入れているのが、シラスだ。」

吉野さん「生シラスは、みんな結構ね、関東圏で話題になってる商材だから。鮮度感、その 1 か月しかないね。そこにぐっと絞り込んでいく。」

ナレ「取れたての生のシラスをどんぶりで食べてもらうために、空き家をブルーシートで、ワイヤー風に改装して、しらす会館を作ったり、」

ナレ「吊るしたサケを冷たい風にさらし、じっくり熟成させて特産品に育てたりと、地元の味にこだわってきた。」

ナレ「ところが、この夏、動揺が広がった。」

吉野さん「本当にあの、新聞で見て、朝起きてびっくりしましたよ。本当に寝耳に水って言うかな。まさかそんなことがってね。本当に寿都町でこういう核のゴミ問題が起きるなんてもう、ひとかけらも全然思わなかったですね。」

ナレ「8 月、寿都町の片岡春雄町長が、核のゴミの最終処分場選びの調査に、応募を検討すると表明したのだ。」
片岡町長「寿都は（景気）刺激策として、一番先に手を上げて、90 億をゲットすれば、これで私の寿都町の使命は終わり、最後に行くつもりはありません。」

寿都町民「困ることは困る。観光の街だから。あと漁師、漁業の町だから。」

寿都町民「私は賛成。はっきり言うけど。そのまま放っておくの？永久に。地上に放ったまま。あんたらどう思う？」

寿都町民「うちの息子、役場に勤めているのさ。だからね。ああでもないこうでもないって言いにくい。ね。すいませんね。」

吉野さん「核のゴミでも来たら、きっと船で運んでくるから、大きな港できてきて、ピリピリピリピリしながら、いろんな経由だとか、そういうのが入ってくるし、街の雰囲気はガラッと変わってきますよ。」

ナレ「全国の原子力発電所で使い終わった使用済み核燃料。そこからプルトニウムなどを取り出し、排液を、ガラスで固めたのが、高レベル放射性廃棄物。いわゆる核のゴミだ。」

ナレ「輸送容器から昇る大量の湯気。ガラスと混ぜた濾過体は、製造直後は 200 度を超え、100 度に冷めるまでに 30 年から 50 年かかる。1 メートル以内で 20 秒浴びれば、死に至る強い放射線が出ているため、ステン

レスの容器に入れ、地下 300 メートルよりも深く埋めて処分する。これが核のごみの最終処分場だ。人に影響がなくなるまで、10 万年もの時間がかかる。」

ナレ「最終処分場を選ぶプロセスは、3 段階。論文などから地盤を調べる調査は 2 年間で 20 億円の交付金。ボーリングを行う概要調査は、四年間で 70 億円。ここまで進めば合わせて 90 億円の交付金が受け取れる。さらに坑道を掘って調べる精密調査に 14 年と、合わせて 20 年をかけて国内の候補地を 1 カ所に絞り込んでいく。」

ナレ「住民説明会は荒れに荒れた。」

住民「最終的に核のごみ場ができてしまうんじゃないかと。そこで心配しているわけです。町長、それをごまかすためにこんなこと言ってるんですか？あなた知らないんですか。それが」

(CM)

ナレ「核のごみを巡る寿都町の住民説明会。開始の 1 時間前から町民が集まり始め、用意した 280 席は次々と埋まった。外ではカキ小屋を経営する吉野さんが、応募検討の撤回を呼びかけていた。」

寿都町民「私は今、もう 70 代です。20 年後ったらもういないと思います。その 20 年後にできるかもしれない、その核のごみ処分場。娘、孫いますけども、それにつながる次の世代の人たちに残したいと思いますか？私はそれだけは残したくない。何にも残すものはないけど、それだけは残したくないと思います。」

ナレ「最終処分場は、核のゴミのトイレに例えられる。若い世代が声を上げた。」

中学生「寿都町は、原発のトイレになってしまうのですか？トイレがなければ人は生きていけません、トイレは人が住むところではないと思います。寿都は人が住むところでなくなるのですか？寿都は、寿（ことぶき）の都（みやこ）じゃないんですか？それと僕の弟は、寿都で生まれて 1 歳になったばかりです。僕の弟はトイレの町で育っていくのですか？将来僕の弟に、この町のことなんて教えてあげれば良いのでしょうか？」

片岡町長「私は寿都町をですね、トイレにしようなんて今言ってるわけじゃないんです。ちょっと皆さん、あの寿都に処分場が来るんだということを、ちょっと頭から除いて頂きたい。まず・・・」

町民「除けないよ。」

片岡町長「だから国を信用しましょうよ。」

町民「信用できないよ！」

片岡町長「そういうことをまだ・・・あの・・・。」

ナレ「3 時間を超える議論は、平行線だった。」

ナレ「説明会に参加した吉野さんは、」

吉野さん「話にならないな。本当にまあまあ」

吉野さん「文献に応募したら、国の政策にずっとやっぱりね、レールを引かれるような思いしてるから。それがやっぱり、一番心配して反対しているところ。」

吉野さん「20 億で計り知れないその波風立ててるんですよ。町民にやっぱり深い傷作ってるから。」

ラジオ体操の曲「足を延ばして・・・」

ナレ「片岡春雄町長。パソコンの画面に映る町の風車を確認するのが、朝の日課だ。」

片岡町長「あれ・・・風車が動いてないな。今日何かあった？年次点検この風強いのに。」

片岡町長「今日の風なら 1 日 24 時間で、7 百 2、3 十万儲かるわ。売上あるから。」

記者「計算が早すぎます。」

片岡町長「金の計算だけは早いんだ。他は全然ダメ。ははは。」

ナレ「山から海に吹いて船をだす。地元の人が、だし風と呼ぶ強い風。この風を活用しようと片岡町長が作ったのが、国内初の町営風力発電所だ。」

片岡町長「だから総合商社なんですよ。総合商社。これからの行政っていうのは、国に与えられたものだけでは、やってかれませぬ。特にうちみたいな小さな町は。本当にどうやってこの地域で稼ぐか。まあ稼ぐのきらいじゃないから、私はね。」

ナレ「街の課長から 52 歳で町長に。この 20 年間、人口 2900 人の町の舵取りをしてきた。風で得た電気は、関西電力に売り、年間 7 億 5 千万円の収入を出している。町税収入の 2 億円を大きく上回る。」

ナレ「街の予測で、40 年後には、人口が 1000 人も減る寿都町。町の財政収支は、頼りの電力の買い取り価格が、3 年後から半額以下になるなど、5 年後には大幅な財政不足に陥る可能性がある。」

ナレ「風力で結果を出した片岡町長。次に注目のが核のゴミだった。文献調査を受け入れれば、20 億円の交付金が転がり込む。机の上で検証するだけの調査をためらう理由はなかったという。」

片岡町長「だって文献調査たって、たった 2 年で文献でどこまでわかります？ やっぱり概要調査まで行ってボーリングして、ある程度の地層ってことが、確認されないとですわね、次の議論でできないでしょって。」

片岡町長「日本全体で可能性のあるところで、皆さん・・・ね、やろうって。単純なことですよ。」

ナレ「そんな中、寿都町から北東へ 40 km。北海道電力泊原子力発電所に隣接する、神恵内村でも、文献調査への動きが明らかになった。」

ナレ「これに対し、片岡町長は、」

片岡町長「けさの朝刊見て、えって、すごく喜びました。仲間が出来て。」

吉野さん「緊張するでしょう？」

ナレ「慣れない背広姿で落ち着かない様子。あのかき小屋の吉野さんだ。町民が核のごみを知るために講演会を企画した。その講師は」

スタッフ「今到着しました。」

ナレ「慌てて出迎えに走る。車から降りてきたのは、小泉純一郎元総理だ。」

吉野さん「ご苦労様です総理。もう遠いところからはるばる。」

小泉元総理「はいどうもー」

ナレ「核のごみに揺れる寿都町に是非来て欲しい。頼んだところ二つ返事で実現したという。」

吉野さん「今町の中でもですね、分断がちょっとずつ始まっている状態ですね。そんな中で先生が、世界で見てこられた、核に対する考え方を、是非住民の方に教えていただきたい。」

ナレ「会場は満席。420 人が集まった。」

小泉純一郎元首相「日本は今、どこも原発の処分場がない。政府は原発を進めているけどね。あてがないんですよ。こういう状況だからもう増やしちゃいけない再稼働しちゃいけない。ゼロに舵を切るべきだと私は言ってるんだけど、まだ原発推進論者の話を聞いて、再稼働させてますよね。」

ナレ「片岡町長にも案内を出したが、姿を見せなかった。」

ナレ「国は、3 年前、処分場の適地を示す科学的特性マップを公表。寿都町の大部分は濃い緑で、最適地とされる。」

ナレ「しかしある研究者は、寿都町周辺には、活断層帯があると警告する。」

北海道大学大学院 小野有五名誉教授「最近の研究で、非常にこれが活発な、活断層の活発が、活発であるというところですね、あの一明らかになっている。寿都町という場所は、あのまず活断層という意味からみると、全くこの地層処分には、不適であるということですね。適さない。」

ナレ「北海道は核のごみを巡り、揺れた歴史がある。」

ナレ「北海道北部、幌延町の深地層研究センター。この場所は核のゴミ、最終処分場の候補地として浮上したの

は、40年前のことだ。」

デモ隊「帰れ。帰れ。酪農士の命を潰す気か。君らは。そうだー」

ナレ「激しい論争が起きたが、国は地元の反発をかわし、最終処分の研究地として。建設を優先した。その際、道が・・・歯止めとして制定したのが、廃棄系放射物の持ち込みを、受け入れがたいとする、核抜き条例だった。」

ナレ「この条例を根拠に、北海道の鈴木知事が、寿都町の説得に動いた。」

鈴木北海道知事「まあその奨学金っていうのを出すのが国だとすればですね、ある意味ではその学校で行く時に中退をすることを前提にその、奨学金を出すにはなかなか、そういうことにならないお話だと思いますので、そういう意味では慎重に皆さんでご議論いただいた中でですね、結論を出して頂きたいなと思いますので、重ねてよろしくお願ひします。」

片岡町長「極力中退にならないようにですね。」

鈴木知事「中退にならないというのは、ここまでいっちゃうということですか？」

片岡町長「私はそこまで行くべきだと思っていますよ。個人的には。」

鈴木知事「最終処分によって」

片岡町長「私はそこに行く時にはもう死んでますよ。」

片岡町長「今の若い人たちが責任もって、そこで前に進むか進まないか、それだけの実力をつけてください。」

(CM)

ナレ「先月寿都町が、文献調査への応募を決断した。」

記者「おはようございます。今日はどのようなご意見を述べられる予定ですか」

町議会議員「(無言)。」

ナレ「多くを語らない賛成派の議員たち。協議会は賛成4反対4で割れ、議長の賛成票で応募が決まった。町長は住民の声を聞くことなく、議会の議決のみで決断を下した。」

片岡町長「これ両方出しちゃうとですね、やはり今まで住民が仲良く暮らしてきたまちに、分断が起きるんじゃないかと。ですからその前に、私は早く判断をさせていただきたいなと」

ナレ「その後、寿都町議会は、住民投票条例案を否決。先週からついに国内で初めての文献調査が始まった。」

吉野さん「(今釣れるのは) ホッケか？」

男性「ホッケとか、あとブリ、ヒラメとかも釣れますね。」

ナレ「牡蠣小屋を営む吉野さんの店舗。一家は今、年末用の、サケの寒干しの発送準備に追われている。」

ナレ「東京の大学から実家に戻り、牡蠣小屋を任されている英寿さん。この先、核のゴミ問題と長く向き合うことになるのは、若い世代だ。」

吉野 英寿さん(28)「今若い人も少ない中、なかなか、20年先30年先を、深く考える人も少ないのかなっていう、のも感じています。その中で少しでも、みんなに考えて、一人一人考えて、反対の動きしてくればなあと言う気持ちがありますね。」

ナレ「一方、妻の涼子さんは町内に漂う、物言えぬ雰囲気嫌気がさしているという。」

涼子さん「言いたいことも言えない。圧かけるような、そんなことばかりしている。本当に寿都町民みんな、大半はそういう圧とか、そんなんで口開けないんじゃないでしょうかね。」

涼子さん「住民投票で、それで多いうちゅうなら、諦めるわけじゃないけど、あつそうなんだって、納得する、あれ(理由)にもなるかもしれないですけど、今納得なんてできる状態じゃないじゃないですか。」

ナレ「吉野さんは、町長のリコールを考えている。街の未来を今後も考え続けていく。」

吉野寿彦さん「未来を考えているのかもしれないけども、住民にしたら全然考えていない。議会も。全くだから

それは、全部の国民、全道民は気づいてますよ。もう歪んでいるっていう、ね。結局はそのお金は何のためと言ったら、自分たちの何か町民のためというよりは、自分たちの不都合のために穴埋めするようなお金にしか感じられないもんね。」

(CM)

膳場「取材にあたった HBC の澤出記者です。あのもの言えぬ空気が広がってきているようですけども、取材を重ねた実感として、町民たちの民意っていうのは、どうなってるんでしょうか？」

澤出記者「この4か月寿都町を取材して、わたしは、文献調査への反対が多いのではという印象を持っています。しかし住民投票が行われなかったので、正確な民意はわかりません。仮に住民投票が行われても、小さな町ならではのしがらみや、様々な思惑が絡んで、本音がそのまま結果に反映されるとは限らないと感じます。」

澤出記者「寿都町では来年11月に町長選挙が予定されています。町長はその選挙で、今回の判断について信を問うと自信をのぞかせます。」

金平「片岡町長のね、国を信用しましょうよ。とか、町のありようを総合商社、行政をまるで株式会社みたいにみられる考え方っていうのは、はっきり言うんですけどね、時代遅れだと僕は思うんですけども。彼の手腕には一定の支持があるわけですね。」

澤出記者「あの一この町長がかじ取りをしてきた20年間というのは、やはり北海道の小さな町にとっては、内政との戦いです。VTRでの風力発電の他に、ふるさと納税などでも稼ぎ出したお金があって、こういったものから公設の診療所を新設するなどの住民サービスも向上させてきました。こうした実績から一定の支持を集めていて、今回の強気な判断の背景になったと考えられます。」

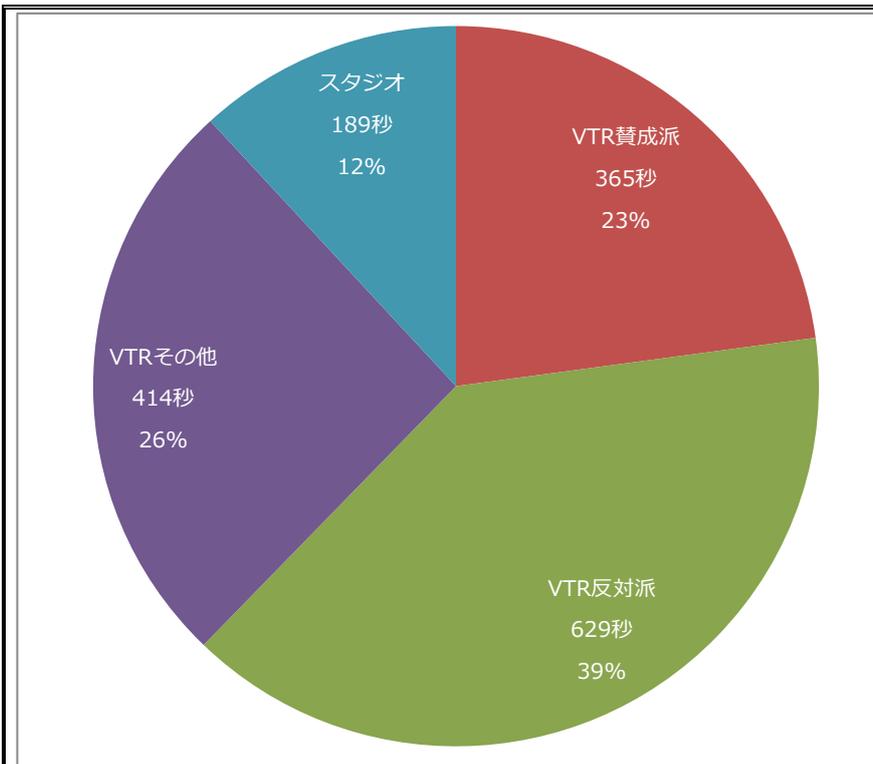
日下部「あの一ごみ問題である以上ですね、使ったものの責任、大量消費者である大都市の住民や大企業、そういった自覚なしに小さな自治体に責任を押し付けているようでは、これは問題解決しないと思うんですけども、この政府の国のやり方ってどうなっていますか？」

澤出記者「原子力政策である以上、核の最終処分場も国が解決すべき課題だと感じます。長らく今の処分場の構想ができてからも、足踏み状態が続いていて、これを打開したい国の思惑に片岡町長は手を挙げたという形で、国に貸しを作るという道を選びました。町長は20億円は国からのご褒美だと話しています。」

澤出記者「先週から始まってます文献調査は北海道の2つの町や村で行われています。そのことは核のごみは北海道の地方の問題だとなってしまうかわないか、そう変わっていくことには十分注意しなければいけないと感じています。」

膳場「HBC 澤出記者でした。」

この特集に当てられた時間は1458秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



割合ではいささか反対派を取り上げる割合が大きいこともあるが VTR の作りとしては寿都町に焦点を当てており、賛成派の片岡町長についてもかなりの程度掘り下げられており、VTR としては放送法上問題とまで言えるような偏りではなかったと考えられる。

とは言え、スタジオでは日下部キャスターが「ごみ問題である以上ですね、使ったものの責任、大量消費者である大都市の住民や大企業、そういった自覚なしに小さな自治体に責任を押し付けているようでは、これは問題解決しないと思うんですけども」とコメントしていたり、澤出記者が「先週から始まってます文献調査は北海道の2つの町や村で行われてます。そのことは核のごみは北海道の地方の問題だとなってしまうかわないか、そう変わっていくことには十分注意しなければいけないと感じてます。」とコメントしたりしているように、この問題は小さな自治体のみの問題ではないというのも事実である。

そうであれば、やはり都市部を含めた他の地域や自治体がどのように受け止めているのか、ということも取り上げなければフェアとは言えないだろう。今後の注視が必要なテーマと考えられる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・【特集】核のごみに揺れる街

この核のごみの問題は小さな自治体だけの問題ではないと思うが、それでは都市をはじめとした他の地域の住民、あるいは核のごみの処分場候補地となりうる地域出身者はどのように受け止めているのだろうか。これは非常に気になる一方で、思っているよりもドライな回答が返ってくる可能性もあるような気がしている。いずれにしても建前論ではなく、そうした人々の本音ベースの議論というものも必要ではないだろうか。

ところで、スタジオでは金平キャスターは「片岡町長のね、国を信用しましょうよ。とか、町のありようを総合商社、行政をまるで株式会社みたいにみられる考え方っていうのは、はっきり言うんですけどね、時代遅れだと僕

は思うんですけども。彼の手腕には一定の支持があるわけですね。」とコメントしていたが、それでは VTR でも取り上げられたような厳しい財政事情を抱えた自治体はどうすればいいのか。稼ぐ力がなく、担税力もない自治体がなんとか地方公共団体として運営できているのは地方交付税交付金であるとか、国庫支出金という国の制度があつてこそその話であり、またそれでも財政が不足するのであれば、地方独自で徴税を行うか、なにかしかの収益性のある事業を営むよりほかないだろう。

国を信用せず、収益性のある事業も行わない、ということになれば元々の財政力のない自治体は身の丈に応じてサービスを切り下げていくか、あるいはサービスを維持するために独自に増税を行うかのいずれかになってくるとおもうが、金平キャスターはどのように考えているのだろうか。

金平キャスターの考える「時代にあった自治体観」というのを是非聞いてみたいものである。